

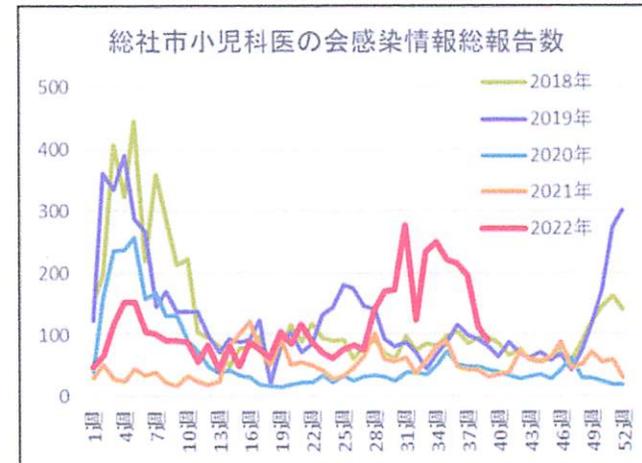
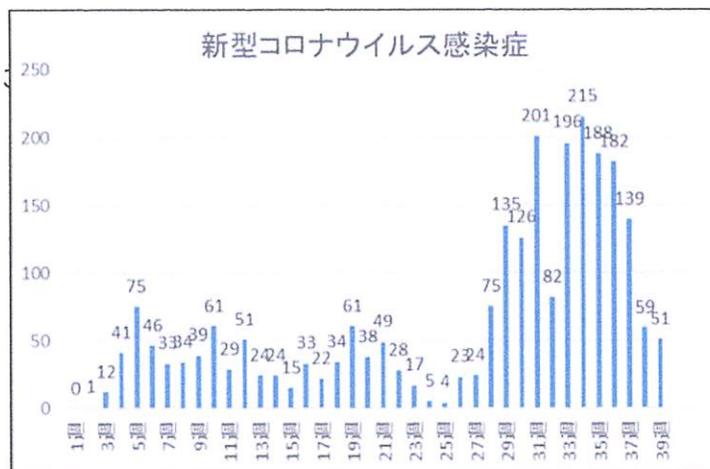
週間感染症情報

2022年36-39週 2022年9月5日より2022年10月2日まで

36週 37週 38週 39週

麻疹				
風疹				
水痘(みずぼうそう)			2	
ムンプス(おたふくかぜ)				
百日咳				
溶連菌感染症				
手足口病	4	5	3	9
ヘルパンギーナ				1
伝染性紅斑				
感染性胃腸炎	10	12	8	10
ロタウイルス(再掲)				
便アデノウイルス(再掲)				
突発性発疹	1	2		4
伝染性膿痂疹(とびひ)	3		1	1
ヘルペス性口内炎		1		
アデノウイルス感染症				2
RSウイルス感染症	1		3	3
マイコプラズマ感染症				
ヒトメタニューモウイルス	7	18	18	5
インフルエンザ				
インフルエンザ A				
インフルエンザ B				
新型コロナウイルス感染症	182	139	59	51

36-39週の4週間の報告です。左下のグラフの様に新型コロナウイルス感染症の報告数(内科の診断患者を含む)は減少してようやく第7波も終息しつつありますが、完全には下がりきっていません。右下のグラフは総報告数ですが、インフルエンザ流行時の報告数に匹敵し、小児での報告が多く、家庭に持ち帰って家族内感染を起こしています。ヨーロッパでは、感染対策の緩和とともに、第8波が始まっており、さらにインフルエンザ(香港型)の報告も増えています。今まで、1か月遅れて日本もコロナの流行が起こっていました。日本でも、海外からの渡航制限もなくなり、今後寒くなるともに、流行が懸念されています。コロナワクチンとともにインフルエンザワクチンの接種も今のうちに済ませておきましょう。小児で、ヒトメタニューモウイルスが流行しています。春先に流行するウイルスですが、ここ2年間は流行がありませんでした。RSウイルスに似たウイルスで、鼻汁・咳で始まり熱が出ます。悪化すると、細気管支炎や肺炎を起こして入院する症例もあります。小児だけでなく、大人のかぜの原因ともなっており、高齢者などでも入院することもあります。RSウイルス感染症も報告が増えています。感染性胃腸炎は、カンピロバクター陽性例の報告が3例ありました。密を避ける(換気が大切)・室内でのマスクの着用・手洗い等今まで通りの感染対策を続けるとともに、体調不良の場合は休む、ワクチン接種ができる5歳以上の方は、機会が来たらできるだけ接種して下さい。



(感染情報については当院のホームページでもご覧になれます。 <http://miyakenaika.com>)